

月例研究会（2025年3月26日）

大原ネットワーク踏査記録、 および学会活動報告

榎 一江

2024年度最後の月例研究会は、大原社会問題研究所が今年度実施した若手研究者支援事業としての学会活動費・出張費補助の成果報告会であった。報告者が多数にわたるため、月例研究会担当者が、この要旨を記すことにした。

大原ネットワーク踏査記録は、出張費補助を活用した鈴木健吾兼任研究員による倉敷訪問の報告であった。

大原ネットワーク（大原孫三郎関連施設・機関ネットワーク）は、大原孫三郎が設立した研究所、病院、美術館など現在も活動が続ける諸機関が集まり、互いが持つ孫三郎に関する情報を共有し、全体像を明らかにすることで孫三郎の功績を再確認するとともに、後世に伝えることを目的としている。法政大学大原社会問題研究所が2009年に創設90周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として設立を呼び掛けた。参加機関は、公益財団法人大原記念労働科学研究所（1921年創立、創立時名称「倉敷労働科学研究所」）、公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院（1923年創立）、大原美術館（1930年創立）、公益財団法人有隣会（2010年創立）、国立大学法人岡山大学資源植物科学研究所（1914年創立、「大原奨農会農業研究所」）、法政大学大原社会問題研究所（1919年創立、「大原社会問題研究所」）である。

9月5日にも大原美術館特別展「異文化は共鳴するのか？ 大原コレクションでひらく近代への扉」の関連シンポジウムとして、「大原

ネットワークでひらく近代への扉」（主催：公益財団法人大原芸術財団、事務局：公益財団法人有隣会）が開催され、各機関の代表が登壇するなどして緩やかな交流が継続している。そのため、研究所に所属する兼任研究員にも倉敷訪問の機会を提供し、その成果を共有できればと企画した。鈴木健吾兼任研究員には、大原社会問題研究所を創設した大原孫三郎生誕の地である倉敷に出張していただき、その「踏査記録」として、倉敷中央病院、大原美術館、倉紡記念館、語らい座大原本邸などの現状を報告するとともに、自身の研究関心に基づいて倉敷考古館や大山名人記念館などについても報告していただいた。倉敷に行ったことのない者にも、倉敷における大原孫三郎の足跡を知り、研究所の意義を再確認する機会となったであろう。

学会活動報告は、学会費や学会出張旅費の補助を受けた兼任研究員による活動報告であった。研究所には今年度11人の兼任研究員が在籍したが、うち7人が申請を行い、この助成を受けた。所属学会は多岐にわたるが、学会報告をした者、投稿して査読論文の掲載が決まった者、遠方の学会に参加できた者など、それぞれに補助を活用して研究活動を充実させたことが報告された。学会によっては、院生や非常勤職にある者に対し、年会費の割引制度を設けているが、学会費や大会参加費、旅費等は研究費のない者にとって大きな負担となる。躊躇なく学会参加ができるよう補助を行うことで、研究活動の活性化を企図したが、おおむね好評で期待以上の成果を上げたようである。なお、今年度は、兼任研究員のうち3人が専任職に就職することができた。引き続き、研究所として若手研究者の育成・支援に尽力していきたい。

（えのき・かずえ 法政大学大原社会問題研究所教授）